

出張報告書

平成30年11月22日

議長 京西 且哲 様

会 派 名 自民クラブ

代表者氏名 池内 矢一

下記のとおり報告します。

記

- | | | |
|---|-------|-------------------------|
| 1 | 目 的 | 全国市議会議長会研究フォーラム出席のため |
| 2 | 出張先 | 宇都宮市文化会館 |
| 3 | 出張期間 | 平成30年11月14日～平成30年11月15日 |
| 4 | 出張者氏名 | 井上源次・反甫旭 |
| 5 | てん末報告 | 別紙の通り |

① 基調講演

「地域共生社会」をどうつくるか 2040 年を超える自治体のかたち

宮本 太郎（中央大学法学部教授）

② パネルディスカッション

「議会と住民の関係について」

コーディネーター 江藤 俊昭（山梨学院大学大学院研究科長・法学部教授）

パネリスト 今井 照（公益財団法人地方自治総合研究所主任研究員）

本田 節（有限会社ひまわり亭代表取締役）

神田 誠司（朝日新聞大阪本社地域報道部記者）

小林 紀夫（宇都宮市議会議長）

③ 課題討議

「議会と住民の関係について」

コーディネーター 江藤 俊昭（山梨学院大学大学院研究科長・法学部教授）

事例報告者 桑田 鉄男（久慈市議会副議長）

伊藤 健太郎（新潟市議会議員）

ビアンキ・アンソニー（犬山市議会議長）

道法 知江（竹原市議会議長）

第13回全国市議会議長会研究フォーラムが栃木県宇都宮市で開催された。まず、基調講演では 2040 年に地方自治体が直面する問題をどのように解決していくべきか考えさせられた。少子高齢化以外にも、若い世代の進学率が上がることで奨学金を借り入れたまま、社会に出ている現役世代が多くいることが問題ではないかと提起されていた。確かに、そのような状況が少子化や未婚・単身化という問題に関係していると感じた。また、若い世代の課題以外にも 2040 年は今以上に平均寿命が延びているはずである。数十年前の 60 代・70 代の人とはまるで違い、元気で働いている人も多い。定年の引き上げ等を議論することはもちろん、定年後の人生をどのように過ごしていただけるか、将来を見据えた施策を行っていかねばならないと感じた。

第2部以降は各分野で活動されている方と議員のパネルディスカッションと課題討議であった。実際にそれぞれの地域で活動されている方のお話なので、本市とも共通する課題も多く、非常に参考になった。また、各議長からの議会改革の事例では議長になっても他の議員の協力がなければ何もできないとのことであった。議長になる、ならないに関わらず、議会を構成する一員としてそれぞれの議員が役割を認識しなければならないと思う。

最後に、議会と住民の関係に関することが中心的なテーマのフォーラムであったが、議会改革のことはもちろんのこと。選挙制度などにも話は及んだ。私たち議員一人ひとりが議会と住民の関係を良好とするために日々の活動を行う必要性を感じた。また、住民が議会にどのようなことを望んでいるのかをしっかりと考え、住民の視点を持ちながら、議会運営に取り組まなければならない。

以上